

本願寺 御歴代門主シリーズ

その七

本願寺第八代宗主

蓮如(れんによ)上人(二四一五～一四九九年)

蓮如上人は永永二十二年二月、第七代存如上人の長男として京都東山大谷で誕生されました。

蓮如上人は近江や北陸地方にて浄土真宗教学の研究や教化活動の青年期を過ごされ、長祿元(一四五七)年に存如上人ご往生のあとを承けて、四十三歳で本願寺の法灯を継職されました。

蓮如上人以前の本願寺は参詣者も少なく不振を極めていましたが、蓮如上人は各地の門徒あてに親鸞聖人のみ教えをわかりやすく、お手紙(ご消息)の形式でつづいた『御文章』を多く記され、また、人ひとに名号(御本尊)を下付されました。

そして、各地の法会では『御文章』が拜読される様になり、読み書きのままならぬ民衆にも、み教えが広まりました。

また、蓮如上人は親鸞聖人の記された『正信偈』和讃』を開板し、現在の真宗門徒の日々のお勤めのもととなる形を定められ、また『正信偈大意』、『正信偈註』、『信仰生活の規範を示した』『領解文』を記されるなど、蓮如上人のご功績により浄土真宗のご法義は飛躍的に広まり、蓮如上人は「浄土真宗中興の祖(ちゆうこうのそ)」と仰がれています。

しかし、当時の京の都は飢饉が深刻化し、また永仁の乱の荒廃期でもあり、やがて本願寺門徒衆は比叡山衆徒から敵視されることとなり、寛正六(一四六五)年、

比叡山の僧兵により京都東山大谷の本願寺は焼かれてしまいました。

蓮如上人は各地を転々とされた後、文明三(一四七一年)、越前国吉崎(現在の福井県)に移住されました。

この吉崎の御坊には、農民を中心とした多くの門徒が参詣するようになりましたが、文明六(一四七四年)、坊舎を炎上する災難に遭遇し、翌年、河内国出口(現在の大阪府淀川中流地方)へと移住されました。

その後、文明十(一四七八)年、蓮如上人は京都山科の地にて本格的に本願寺建立にとりかかれ、文明十二年(一四八〇)年には親鸞聖人のご真影を安置する御影堂、翌年には阿弥陀堂を建立されました。

そして延徳元(一四八九)年、門主の職を突如上人に譲られてのちは、紀伊、大和、瀬戸内各地の教化に努められ、明応五年(一四九六)年、その交通の拠点である大坂石山に坊舎を建てられました。

しかしながら、明応八(一四九九)年三月二十五日(旧暦)山科本願寺にて、八十五歳で浄土にご往生されました。



本願寺第八代宗主 蓮如(れんによ)上人

※参考文献 福岡光超著「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「秋季彼岸会」(善教寺本堂)

九月 十四日(土) 朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

講師 海谷真之師 (江田島市光源寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

九月 十六日(月・祝) 午後一時半～

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「護持会報恩講」(善教寺本堂)

十月二十六日(土) 朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

講師 藤井聡之師 (安佐北区安佐町教雲寺)

*送迎マイクロバスを運行します。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp